

川
柳

【小学1年生・2年生】

特 選 きゅうしよくできらいなものをたべれたよ

金城小学校1年 藤田 優衣

(評) まいにちのあたりまえのことが、いきいきとかかれています。「たべれたよ」というさいごの「よ」のひとことで、うれしさ、じまんしている気持ちが、つたわります。十七文字の世界が一字でかわります。すごいね！

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 ゆきだるまわたしだけのをつくろうよ

城西小学校1年 高橋 明由実

(評) ゆきがつもった日、モクモクとじぶんの世界の中にはいりあかるい日さしの中で、ゆきだるまとあそんでいるようですが目にかびます。ゆめのあるさくひんです。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 あさがおがもうすぐさくよなんのいろ

稲枝東小学校1年 中川 祐晴

(評) あさがおが大きくなるのをわくわくしながら、かんさつしていたのでしょうか。大きくなるにつれ何色になるのか気になりますね。「なんのいろ」とてもうまくひょうげんできました。かんしんしました。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

特 選 トントンといいおとなるよけんだまだ

城南小学校2年 榎田 航大

(評) けんだま、むずかしいですね。トントンという音をリズムにとっておどりがら、楽しんでるようです。すぐにじょうたつしそうですね。もしあなたと会うことがあったら「こつ」をおしえてくださいね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 くじらぐもふわふわあそぼのってるよ

城西小学校1年 藤野 羽菜

(評) しばふにねころがって空の雲をみる。あのくじら雲にのってみたいな、あそんでみたいなど、そうぞうして楽しんでるようすがよくわかります。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 ひみつでもきにしないんだわかったぞ

城西小学校1年 宮下 鈴菜

(評) だれのひみつなんだろう。読み手が気になって、いろいろそうぞうします。ともだちのひみつ？おかあさんのひみつ？そのひみつがわかったら、どうしたのだろう。とても気になる句です。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 こうえんでなわとびびよんたのしいよ

城西小学校1年 北川 杏

(評) ひとりでなわとびしたのかな、ともだちとしたのかな、れんしゅう中なのかな。「びよん」の一言が、まわりを明るく楽しくしますね。「びよん」ほんとうに楽しそう。あかるくていい句です。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 楽しみのショートケーキ空だった

平田小学校2年 宮澤 沙季

(評) この句ほんとうに笑いました。読み手がみんな声をだして、笑いたくなる句です。でも、さんねんだったね。新しいケーキ食べられたかな。そのあとのようすも句にして書いてみてね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 いいえがおしゃしんとるよはいチーズ

若葉小学校2年 大菅 麻央

(評) 「はいチーズ」そのひとことで、すてきな笑顔になりますね。ふだん、何もな
いときでも、笑顔がまわりのみんなをしあわせにする。ということを知ってほ
しいと思います。笑顔で世界がしあわせになることを忘れないでね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 たのしいなあそこだあそここうえんだ

城陽小学校1年 比喜多 優奈

(評) こうえんはそこにあるのに「あそこだあそこ」おもしろいね。どこをウロウ
ロしてたのかな。さて、こうえんでだれとあそんだのかな。何をしたのかな。
そこから川柳が生まれます。楽しみにしています。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 あきがくるおやこみんなでほしをみる

城南小学校2年 小原 蓮

(評) いい家族ですね。星のなまえひとつ、おぼえましたか。ひとつおぼえること
からうちゅうは広がります。家族みんなで星のなまえをおぼえましょうね。楽
しいですよ。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

準特選 あきあかねゆうひをとんであかいろだ

城南小学校2年 林 義仁

(評) ふつうの色したトンボが秋の赤。夕日の赤にそまって、まっ赤なトンボにな
るといふドラマを思いかべました。作りおえてから、なんども読むといろん
なドラマがうかびます。川柳のいちばんおもしろいところですよ。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)

佳作 こくごでねひらがなぜんぶおぼえたよ

金城小学校1年 青谷 空愛

佳作 たのしいなおかあさんにもほんをよむ

金城小学校1年 藤井 瑚々音

佳作 やすみのひぼくカマキリをさがすんだ

金城小学校1年 北川 大雅

佳作 ドングリがぼつんぽつんとおちてきた

金城小学校2年 野瀬 友喜

佳作 すず虫がきれいになくよきいててね

金城小学校2年 田中 陽乃

佳作 けんだまでやればやるほどうまくなる

城西小学校1年 林 希星

佳作 クリスマスサンタさんすきありがとう

城西小学校1年 王 聖彦

佳作 かさをさすポツポツポツとおちてくる

城西小学校1年 櫻木 翔

佳作 こうえんですず虫こおろぎおどってる

城西小学校2年 北村 奏

佳作 あきがきてコスモスがさくゆらゆらり

城西小学校2年 植田 初花

佳作 あかとんぼゆうひのほうにみんないく

城西小学校2年 コー浦 快

佳作 おかあさんいつもありがとうすき

平田小学校1年 圓城 梨花

佳 作 九九のうたスローでうたうたのしいな

平田小学校2年 脇坂 伸弥

佳 作 いのししははなでえさとるゴソゴソと

平田小学校2年 グエンシアファット

佳 作 ゆれているはがぐらぐらともうぬける

稲枝東小学校1年 柴田 都喜

佳 作 あみだくじあたらないかなたのしみだ

城陽小学校1年 野田 楓菜

佳 作 キリギリスとおいところでないている

城陽小学校2年 谷口 天真

佳 作 コロナあけみんなにあえてうれしいな

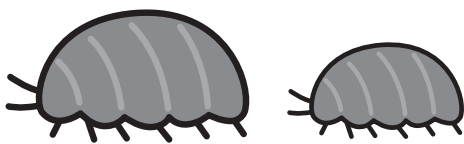
城南小学校2年 川村 実歩

佳 作 れんきゅうはおうみてつどうたいけんだ

城南小学校2年 八田 爽生

佳 作 だんごむしあしがほそくてかわいいな

城南小学校2年 富江 結愛



入選 お月見のだんごぱくぱくおいしいな

金城小学校2年 堀内 遥日

入選 となかいがそらをおるくよすごいねえ

城西小学校1年 内藤 仁菜

入選 ゆきだるまころりとまるめかんせいだ

城西小学校1年 東 春樹

入選 どんぐりがかくれているぞ木のなかに

城西小学校1年 吉田 悠希

入選 あかとんぼゆうひのそらでいっばいだ

城西小学校2年 元 金祺

入選 ひよどりがかきをとろうとがんばった

城西小学校2年 一圓 奈菜子

入選 たぬきさんばけねこみたいでおもしろい

平田小学校1年 吉田 琉空

入選 ほんをよむぺらぺらめくるかぜがふく

平田小学校2年 林 琥太朗

入選 たけのこはとんがっていてちからもち

平田小学校2年 樋口 結心

入選 ともだちとげえむでまけてくやしいぞ

稲枝東小学校1年 辻 蒼介

入選 ガンバルズウンドウカイをガンバルズ

稲枝東小学校1年 西津 隼音

入選 ゆにこーんにじをわたってとびまわる

稲枝東小学校1年 村西 光莉

入 選 おいもほりほりほりするぞエイエイオー

若葉小学校2年 樋口 優依

入 選 おいしいなやきおにぎりはほくほくだ

若葉小学校2年 後藤 響太郎

入 選 なつやすみすいかをたべてはなびみる

城陽小学校1年 竹中 杏奈

入 選 コオロギがコロコロリンとなきだすぞ

城陽小学校2年 木下 結都

入 選 すいそうにかわいい魚めだかだよ

城陽小学校2年 北川 柑菜

入 選 あきだなあとんぼいいなあゆらゆらと

城南小学校2年 吉田 琉惟

入 選 あきだなあもみじいっぱいみにいこう

城南小学校2年 藏本 小桜

入 選 つきのうえもちつきしてるうさぎがね

城南小学校2年 野坂 麻結

入 選 ふゆのあさこたつでねるのたのしみだ

城南小学校2年 八木 優奈

入 選 月曜日ドッチボールがたのしみだ

城南小学校2年 宮本 綾

入 選 チョコレートとけちゃうまえにたべちゃおう

城南小学校2年 浅賀 仁心

入 選 おねえちゃんそとできようそうしませんか

城南小学校2年 柴田 一徹

入 選 おんどくをまいにちしたらおぼえたよ

平田小学校1年 佐野 碧哉

【小学3年生・4年生】

特選 べん強したみどりの黒板白になる

城陽小学校3年 西崎 悠

(評) 学校の授業中の先生の問いかけに、生徒たちの答えが黒板いっぱい書かれた様子なのかなと想像しました。
みどりと白の言葉だけで勉強をがんばっている様子が上手に表現できています。

特選 あめのおと風といっしょにがっそうだ

平田小学校3年 柳本 知里

(評) 台風のような雨と風が強い時は不安であり、気分はあまり良くないはずですが、雨と風が合奏(がっそう)のように聞こえて、逆に楽しんでいたのかな。みんな気が付きにくいことを句にしているのが良かったです。
(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 お母さんおこっけていてもお母さん

城東小学校3年 江口 果凜

(評) だれでも小さなころにはお母さんと長くふれあい愛されて育ちます。感謝もしているから、いくらしかられて怒りを感じても最終的にはきらいになれないね。次はお父さんに対して句を作って喜んでもらってください。
(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 小さな手妹の手はあったかい

城東小学校3年 池田 柚愛

(評) 歳の差のある妹を見て小さい手だなと思いついて握ってみたら、昼寝前なのかあたたかいと感じたのですね。幼い子へのほのぼのとした情景が浮かびます。大きくなった時、この頃のことがいよいよ思い出になるでしょう。
(彦根文芸協会 浅井 利行)

準特選 めだかがねうちちのベランダ占りよう中

城北小学校4年 村山 翔紀

(評) 室内ではなくベランダに水槽があり、たくさんのめだかがいるのを占りよう中と表現しています。ベランダは暑いときや寒いときもあり、めだかへの思いや育て方の工夫なども句にしてみてください。
(彦根文芸協会 浅井 利行)

佳 作 給食メニュー秋の食べ物せいぞろい

城東小学校3年 山下 藍士

佳 作 だれだろうメイクおとすとお母さん

城東小学校3年 安達 雅

佳 作 進化するぼくの走りをみせてやる

高宮小学校3年 堀田 悠介

佳 作 いもうとがひまだひまだとおおさわぎ

平田小学校3年 村木 登羽

佳 作 新学期友だちと席はなれたよ

城陽小学校4年 八尾 一咲

佳 作 よぞらからふってくほしがとれました

城陽小学校4年 辻 音弥



入 選 秋の夜ピアノの音がひびいてる

城東小学校3年 池田 智奈美

入 選 マスクつけみんながあつい言っている

鳥居本小学校4年 平田 楓眞

入 選 二学期は運動会が楽しみだ

鳥居本小学校4年 北川 七歩

入 選 きんようびまちにまったよソーラン節

城陽小学校4年 辻 琉愛

入 選 ゆめの中楽しい思い出作れたよ

城陽小学校4年 織田 琴葉

入 選 もみじはねいろんな色があるんだよ

城陽小学校4年 種村 琴美

入 選 おべんとうママありがとうおいしいな

城陽小学校3年 小川 陽菜

入 選 おかあさんおこってばっかつのはえた

平田小学校3年 山本 花音

入 選 がんばって声をかけられ元気です

平田小学校4年 磯崎 虎來

入 選 たのしいな友だちいいなあそぼうな

平田小学校4年 小川 玲央

【小学5年生・6年生】

特 選 ハスの上希望のしずくあるばかり

稲枝東小学校6年 脇坂 凌生

(評) 「あるばかり」なのだ。ハスの葉の上には暗い夜の間に露のひとしずくが生まれ、朝の光の射すのを待っている。ゆつくりと、心の中に芽ばえてきた、かなえられるはずの希望があるにはあるのだけれど、光は射すのだろうか。不安な日が過ぎてゆく。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選 金曜日気分的には休みの日

稲枝東小学校6年 伊吹 明莉

(評) だよね。目を閉じていれば、授業もあと少しで終わる。土日のことを思えば、算数も国語もそうむつかしいものでもない。毎週金曜日になると、窓の外には風が吹いている。明日からいろいろといそがしくなる。ゆつくりとしておこう。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

特 選 冬の外周りは全部冬げしき

若葉小学校5年 北川 結子

(評) 冬の外は寒い。そして、四方すべて冬のけしきに囲まれている。それはそうだろうと言いながら誰もがほほ笑む。ほんまにそうやねと思いつつ、うまいこと言うやないかと笑ってしまう。冬には冬を楽しまないとね。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)



準特選 十五夜の満月きれいで一目惚れ

若葉小学校5年 久米 姫菜子

(評) 「一目惚れ」かわいいなあ。ほれるが漢字なのも本気なんだろうなあ。「きれいで」は相手のこととお月様の両方なんだろう。というところで、この句は「満月」の後で切つて、一拍おいて読むと良い。「十五夜の満月」むちゃくちゃきれいなんだろう。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 ハヤブサが羽を大きく広げ空へ飛んだ

稲枝東小学校5年 生子 咲

(評) おお大きなあ、すごいなああの気持ちがよく分かる。その驚きが五七五のワクをこえてしまったけれど、気にならない。そして、大空へ飛び立つものへのあこがれを抱いている自分に気付いたのだろう。巣立の日が近づいてきている。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 はるがすみさくらばかばかさきほこる

若葉小学校6年 松澤 春華

(評) 「ばかばか」が無ければなんという句ではない。「ばかばか」のおかげで、どうにも不思議で楽しい句になっている。ふくらんできたつぼみが、次つぎと「ばかばか」と開いてゆく。どこか、ばかばかしくもあるようで、おもしろい。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 ランドセル背負う妹小さいな

城東小学校5年 中田 亜沙美

(評) 妹は一年生だというのにずいぶん小さいなあ、ということではない。ランドセルがでかすぎて、大きすぎて、せおった妹はなんとも小さく見えてしまう。それがおかしくてつい笑った。でも教科書などを入れたらおもくなるぞと思うとちよつと心配になつてくる。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

準特選 ひきこもるざわめく風がこわいんだ

城西小学校6年 武田 深音

(評) ざわざわと吹く風はたしかにこわい。強く吹く風の方がまだ何とかできるような気がする。身をひそめていれば風は通りすぎる。その体験を忘れずにいればよい。すなおな気持ちと選ばれた言葉が読む人の心にしみりとひびく。

(彦根文芸協会 重森 恒雄)

佳作 君という光を見つけ走りだす

稲枝東小学校6年 大村 璃央菜

佳作 コロナくんあなたがいえでじしゅくして

稲枝東小学校6年 岡本 悠芽

佳作 マスクとる口に空気があふれ出す

稲枝東小学校6年 二木 育海

佳作 歩きだそう見慣れた景色にさようなら

稲枝東小学校6年 南 友理奈

佳作 はっとして手をのばす私夢の空

稲枝東小学校5年 平居 里那

佳作 秋の朝もみじの葉っぱが落ちている

稲枝東小学校6年 久保田 十基

佳作 くりさがし落ち葉の中にくり一つ

若葉小学校5年 森 花歩

佳作 消しゴムで何度も消した自由ちよう

城西小学校6年 西畑 穂美



入選 円周率ひまな日考えてまた忘れる

城北小学校6年 木村 草太

入選 学校は友だちいるからやってける

城北小学校6年 高橋 若葉

入選 ふり返るそこにはきつと仲間たち

城東小学校6年 藤田 あかり

入選 冬の夜にかうれしい夜の星

稲枝東小学校5年 竹村 萌生

入選 まいにちはたのしいことがそんない

城北小学校6年 山崎 佑輔

入選 まどのおくハチのしたいをもっていく

城北小学校6年 宮島 巧

入選 とうげこう魚といっしょにあるいてる

稲枝東小学校6年 中沢 美月

入選 よせがきが送られてきた退院日

城西小学校6年 安達 史織

入選 ちくぶしまどこからみてもいいけしき

稲枝東小学校5年 浦谷 幸加

入選 ふねに乗りきれいなびわこ見ていたよ

稲枝東小学校5年 辻 梨花

入選 小学校友達百人できたかな

稲枝東小学校6年 丸山 幸輝

入選 うみのこで食べるカレーは五つ星

城東小学校5年 佐川 涼

【中学生】

特 選 ぼくのこと人生こそが問題集

西中学校3年 中谷 篤司

(評) うまいこと言いますね。あなたの今後の人生、いろいろ良くも悪くもありま
す。その課題一つ一つを問題ととらえ解決しながら成長してゆく姿勢は立派で
す。うまく表現しましたね。

立場を逆にするともっと違う句ができます。ますます川柳を楽しんでくださ
い。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

特 選 栄光は一人の人の物語

南中学校1年 山本 健斗

(評) 栄光はその人の努力の結果を表し勝ち取ったものです。そこに至る迄のいろ
いろな努力、苦勞、挫折があつてつかんだその過程が物語ですね。栄光はチー
ムみんなの物語とも表現できます。個人でも回りの人の多くの支えがあつて成
し遂げたものです。うまく表現でき、リズム感も良いです。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 体冷えコロナのせいで心冷え

鳥居本中学校2年 大城 奏琉

(評) コロナ禍の中、思う様に活動できず寒い中よけい寒くなります。コロナは人
の心も変えてしまい「誹謗」「中傷」で心まで冷えさせてしまいます。感染して
もその人が悪いのではないのに。みんなそんな気持ちだと思えます。
この句は素直に気持ちを表現しています。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 心の中君の瞳に見抜かれる

鳥居本中学校2年 中森 琴音

(評) 「目は口ほどに物を言い」昔からよく言われています。話す時相手の目を見な
がら話すと自分の心が判っている時と、そうでない時の目は違います。そこを
見抜かれたと表現しています。うまく表現できています。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

準特選 コロナ禍でダメージくらう店と僕

稲枝中学校1年 廣田 慶次郎

(評) コロナ禍で大変なときです。今年こそ皆が心を強くしてこの困難を乗り切り
ましょう。
この句は作者を含めた皆が前向きになろうと呼びかけた句と感じました。今
世の中の皆が思っていることを素直に表現し立派だと思えます。

(彦根文芸協会 浅野 忍)

佳作 アルバムはあの日の心を思い出す

西中学校3年 川崎 翔登

佳作 ほしいのはマスクじゃなくて日常だ

西中学校3年 村井 直樹

佳作 歩きだそう明日へはばたくゆめのみち

東中学校1年 須賀浦 彩華

佳作 天翔けるそんな明日を夢見てる

稲枝中学校1年 山田 大悟

佳作 ユニセフは子どもをすくうきかんだよ

南中学校1年 中島 晴翔

佳作 画用紙のコマ割りの中かたつむり

南中学校3年 洞田 珠宙

入選 たいせつな琵琶湖のアオをまもろうよ

鳥居本養護学校 中学部3年 S・H

入選 やらないと始まらないよねなんでもね

鳥居本中学校2年 利根川 恋々

入選 日が暮れて澄んだ空には光る星

西中学校3年 西田 声風

入選 今の時期マスクをとったら別人だ

西中学校3年 門野 美伶

入選 僕の未来コロナのせいで変わるのか

西中学校3年 磯貝 奏

入選 胸の中友との思い出たからもの

西中学校3年 田中 千遥

入 選 大地這い千年の時屋久杉や

稲枝中学校1年 田口 陽太郎

入 選 こころはねばんそうこうでなおらない

稲枝中学校1年 竹井 信一郎

入 選 コロナがねみんなのいのちねらってる

稲枝中学校1年 田村 優衣奈

入 選 カマキリやおまえはなんでうごかない

稲枝中学校1年 大西 翔琉

【総評】

コロナ禍^かで学校も皆さんの生活も一変したと思います。昨年夏の「夏休み文芸ワークショップ」もなくなりまして。そのような最悪の中行われた「ひこね子ども文芸作品募集」に応募してくださいました皆さんの熱意にうれしくてうれしくて……ありがとうございます……。川柳に興味をもってくれた「若いともだち」がふえたことに感謝しています。

今回の作品は低学年がたいへん上達していました。

ひらがな、カタカナ、漢字。うまくつかっている作品がふえてきています。十七文字で表現するのですから、ひらがな、漢字をうまく利用することで表現が増えるときがあります。

季節を書いた作品も多かったです。様子をあらわすだけでなく、その様子を見て感じとったことを表してみてください。五・七・五の世界がわかる気がします。たくさん作って意見交換する。たった十七文字の短い作品。だれでもすぐできる作品。家族全員で楽しめるゲームのひとつにしてくださいね。

(彦根文芸協会 森口 ゆめみ)